▼編集後記

いまさらだが、学生や大学院生の教育に関わっていると、彼らがインターネットの情報に影響されていると感じることが多々ある。先日も授業で歴史人口学をとりあげた。その際、根本史料である教区帳簿の情報を整理するために、家族単位に作成する「家族カード」の話をした。ややこしい内容であったこともあり、授業の終わりに「家族カード」の内容を記述させる課題を受講生に出した。だいたいの学生が何とか授業をふまえて説明しようとしたのだが、数名の学生が「家族も使えるようにしたクレジットカード」といった趣旨のことを書いてきた。ネットで検索をかけて上のほうに出てきた情報をそのまま書いているらしい。この手の話は別に新鮮なものではなく、もう慣れっこになってきている。自分も情報収集の手始めにはネットを利用するので、どこかで同様のことをしでかしているであろう。現在、情報収集のためにネットの便利さは何物にも代えがたいことは認識しなければならない。ならば、ネット上の学術的情報の精度を上げるように努力すべきであろう。そうしてみれば、刊行以来ネットにも情報をあげてきた『ゲシヒテ』が歴史研究や教育に果たす役割は、かなり重要なのである。（北村昌史）

今号より本誌の編集実務を担当させていただくことになりました。編集委員、新旧事務局、そして執筆者のみなさまから多くのご協力・ご親切を賜り、無事新たな一冊をお届けすることができました。この場をお借りして、関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

右で北村先生が触れていらっしゃることとも関わるのですが、私がドイツ現代史研究会に参加させていただくようになったきっかけは、HP上の『ゲシヒテ』バックナンバーに知的な刺激を受けたことにあります（それ以来今日まで、研究会のみなさまのお仕事や議論のご様子から、たくさんのことを教えていただいております）。今号の編集作業中は、一介の『ゲシヒテ』ファンの私が編集に関わっていることに不思議さと嬉しさを感じつつ、寄せられたご論考からまたしても多くのことを学ばせていただきました。まだまだ勉強中の身ではありますが、今号がさらに新たな議論を喚起するのを予感し、かつ楽しみに感じております。（野上俊彦）

▼編集委員

服部　伸（同志社大学）
高橋秀寿（立命館大学）
中野智世（成城大学）
近藤潤三（元・愛知教育大学）
丸畠宏太（敬和学園大学）
北村昌史（大阪市立大学）

▼編集実務

野上俊彦（神戸大学・院）

ゲシヒテ

第11号

2018年4月30日発行

▼編集発行

ドイツ現代史研究会（代表・若尾祐司）
〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学文学部　服部伸研究室内

▼印刷

株式会社オーエム